

温暖化防止の取組みをじゃましている国

映画ポスターのような右の写真は、インドネシアの新聞に掲載されたという意見広告です。「国連気候変動枠組み条約締約国会議」(COP13)が最終盤をむかえた12月14日、英字紙「ジャカルタ・ポスト」の紙面だそうです。

タイタニック号を思わせる船に、米国の大統領、日本の首相、カナダ首相の顔写真を並べて、「目標がなければ、世界的な災害がすぐにやってくる。世界は屈服しない」と、国際合意を妨害する3国を批判しています。

「私たちは、米国とカナダ、日本に対して、2020年までの(温室効果ガス)排出削減の目標を阻むことをやめるよう強く求めるとともに、ほかの国に対してこれ以上の譲歩を拒否するよう強く求める」というメッセージが添えられています。

国際政策研究グループ「AVVAZ」(“声”)がよびかけたメッセージに、掲載直前の24時間だけで、178カ国、5万3139人が賛同したそうです。

地球温暖化を食い止めようという世界の流れを日本政府が妨害して



いる・・・と、国際的には見られているということです。はたして、それが日本国内で暮らしている私たちにどれほど伝わっているかなあ。

「うぶん」をめぐる点と線

連載②

磯原海岸のニツ島の立木が白くなってしまった謎(前々号)のつづきです。

すでに紹介したとおり、その異常な光景は「うぶん」(鶺鴒のフン)によるものと観察されました。では、それほどまでに同島をめぐらにする鶺鴒が増えてしまったとすると、その原因は何なのか・・・。

島に隣接するホテルの女将さんなどは、もしかしたら島をライトアップしていることが関係しているのかしらと心配していました。ライトに照らされたために、夜間に出没する天敵が来なくなり、結果的に鶺鴒が増えたという仮説です。

ただし、ライトアップは10年も前からおこなわれています。島の立木が白くなったのは最近のことで、時

間的にみて関係ないように思えます。

この点については、自然の生態系は10年くらいの単位で変化していくものであり、ありえない話ではない、という人もいました。でも、だとしたら、いったい、そんな天敵って何でしょう？

この問題は、6月の市議会において、ある議員さんが一般質問で取り上げました。が、上記のような具体的な質疑にはいたらず、あまり中身はありませんでした。

こうして、かつて見たことのない現象の謎は解明されることなく、半

今年も玄米モチや豆モチ

あまり積極的に宣伝するわけではありませんが、うちで搗く「玄米モ



年以上が過ぎたのでした。

というわけで、またしても紙面がつかまりました。(次回で完結予定)

チ」が好評です。ほかに白モチや豆モチも。いずれも無農薬栽培のモチ米や大豆が原料です。注文のほう、まもなく締め切ります。